

会 議 録

会議名	平成22年度第2回 八王子市市史編集委員会	
日 時	平成22年9月12日(日)午後1時55分～午後4時30分	
場 所	八王子市男女共同参画センター会議室	
出席者氏名	委員	藤田覚委員長、新井勝紘副委員長、相原悦夫委員、畔上能力委員、池上裕子委員、関和彦委員、前田成東委員、松尾正人委員、光石知恵子委員
	説明者	佐藤広市史編さん室長、新井雅人市史編さん室主幹、長谷部晃一市史編さん室主査
	事務局	(説明者のほか)福田美和子市史編さん室主任、渡部恵一市史編さん室主事、中村元市史編さん専門員、柳沢誠市史編さん専門員
欠席者氏名	小川直之委員	
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門部会の活動状況について 2. 『八王子市史研究』創刊号について 3. 資料編の刊行準備について 4. 顧問及び協力員の設置について 5. 平成22年度補正予算の計上について 6. その他 	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	資料1 市史編集専門部会調査活動報告 資料2 『八王子市史研究』創刊号の編集状況について 資料3 資料編の体裁、内容等の統一について 資料4 顧問及び協力員の設置について	

会議の内容

1. 開会

【藤田委員長】それでは平成 22 年度第 2 回編集委員会を開会する。小川委員が欠席であるが、出席 9 名で会議は成立している。

2. 専門部会の活動状況について

【藤田委員長】まず、専門部会活動状況の報告を行う。今回は、各部会から今後約 3 か年の活動計画が配付されているので、この間の各部会の活動状況と併せて報告してほしい。

【委員】原始・古代部会では、来年度には資料編の刊行が迫ってきており、各部会委員が解説の執筆に入っている状況である。また、部会の中で南多摩窯跡群の土器に絶対年代を与えるため、埼玉や相模などの土器と比較検討していく検討会を行い、順調に成果が上がっている。この成果は市史研究で発表するほか、資料編や本編にも生かしていきたいと考えている。

今後の計画であるが、今年度中には八王子地域の古環境を知るため、ボーリング調査を行っていく予定である。また、北大谷古墳の発掘調査を行い、古墳の形態の再調査ができることに期待している。

【委員】中世部会の会議では、今後の 3 か年計画や、この後行う山口、島根方面の調査について話し合ってきた。また、8 月には加住地区の集中調査を行った。中世部会の関係資料で大きなものは、北条氏照関係、大石氏関係のものなどがあるが、活字の資料はかなり集まってきた。どの程度まで資料編に掲載するかは未定だが、これから来年度にかけて原本との照合作業なども行っていく必要がある。

中世考古遺跡に関しては、本間岳人専門調査員にお願いしているが、原始・古代部会の方々にもお願いし、どの遺跡を資料編に掲載するか検討してもらっているところである。

【藤田委員長】近世部会の会議では、史料調査の現状、収集した文書の目録作成やマイクロフィルム化の状況の確認を行っている。また、ここで、資料編の目次案も作成したので、今後この目次案に史料で肉付けをしていくことになる。

今後 3 年間の計画としては、史料調査や各自治体史からの八王子関係史料の抽出を引き続き行うほか、24 年度には資料編を刊行するので、来年度には資料の選択や執筆分担の割り振りを行うことになる。また、近世史料の数は膨大であるので、資料編 2 冊では限界があり、資料編とは違う形で資料集を出せないか検討した。今の案では、村明細帳や検地帳集成を刊行するほか、宗門人別帳や絵図なども資料集として出せばいいと考えている。

【委員】近現代部会では、資料編 1 に向けて、資料選択のスケジュールをどうするか話し合った。部会委員は、大学の夏季休業中に個別に調査に取り組んでほしいとお願いしてきたが、それぞれで市史編さん室に通っていただくなど、かなり資料選択は進んできたと思う。

また、懸案だった八王子の歴史研究の先輩方からの情報収集であるが、7月に沼謙吉さんをお願いして実施できた。キリスト教の問題や織物史、自由民権運動などについて、沼さんの研究の成果なども伺い、成果があったと思う。

今後の計画については、近現代部会はまず資料編1をまとめなくてはならないが、次の資料編2に向けても行政文書以外の資料、私文書などの収集も始めなくてはならない。今佐藤正広委員が進めている「統計で見る八王子」や以前から取り組んでいる橋本義夫さんの資料を何とか資料集のような形で刊行できないかと思う。

【委員】自然部会はいよいよ現場での調査が進んできた。委員や調査員たちは調査で野外を飛び回っている。昆虫関係を中心に若手の専門調査員を補充でき、かなり充実してきた。

植物分野のメッシュ調査では、市内を90ほどに区分して調査しているが、北部のほうは奥田重俊委員、南部は内野秀重専門調査員が担当して調査が進んでいる。できるだけ資料を集めていきたいと思う。

【新井主幹】民俗部会については、事務局から報告する。前回部会長からも報告があったが、民俗部会はテーマ別調査、地域別調査の2種類の調査を行っていくこととしている。テーマ別調査は今後も継続的に本編刊行まで続けていく。地域別調査については、今年度は恩方地区の調査を行っており、23年度は由木地区、24年度は浅川地区の順で調査を行い、最終的には市内5地区で調査を行う予定である。地域別調査の結果は、「民俗調査報告書」という形で刊行する、それとは別に調査報告書を4冊刊行したい考えである。

【藤田委員長】各部会から報告があったが、何か意見はあるか。本編、資料編とは別に資料集や調査報告書の刊行の予定があったが、本編、資料編ではカバーできないような資料を、他の形、例えば「市史資料叢書」のような形で発表していくということでもいいか。予算の問題もあるので、現段階では編集委員会としてそのような計画を持っているということにして、事務局に伝えておきたい。

【委員】大変厳しいスケジュールの中、原始・古代部会ではすでに原稿の執筆にかかっているということで、事業もだいぶ進行しているという印象である。今話の出た「市史叢書」については、やはり本編、資料編とは別に刊行していく必要がある。今現在計画していない部会でも今後刊行したいということになるかもしれないので、少し継続的に議論していく必要があると思う。

【委員】できれば今回の市史編さん事業に関わってやりたいことはある。例えば八王子の「現存植生図」などは作るだけで大変な金額がかかる。ぜひ、自然編刊行後の継続事業という形でできないだろうか。今、都では東京都の自然誌を作ろうという機運が高まっている。これを考えると、市が現存植生図を作るとなればかなり先進的な事業となる。できれば市史編さん事業として、その程度までやってほしいという期待は持っている。

【藤田委員長】「叢書」とするかどうかは別にして、統一したシリーズ名はあったほうがいい。巻数の番号もつけるようだろう。各部会で計画があれば早めに申し出てもらいたい。これらは部会からの希望として出されていることであり、ぜひやりたいという内容のもの

である。あくまでも希望ということだが、事務局にしっかり伝えておきたい。

【委員】各部会からの報告があったが、近世部会のこれまでの作業内容を聞いていると市の周辺部の地域の資料に主眼が置かれているように思える。近世八王子では八王子十五宿、つまり現在の市街地が中心であったが、この地域の資料についてはどのような作業をしているのか。一方の近現代では、明治期の近代都市八王子の形成を主眼に資料集を作っていくように思えるが、そうすると近世と近現代とで資料編が分断されてしまう気がする。

近現代では、橋本義夫氏の資料の話があったが、他にも例えば内国博覧会や八王子の市制施行の原点である明治42年の市制施行運動に関する東京都公文書館の資料の調査はどうなっているか。また南多摩高校の前身である八王子女学校の資料などの調査はどうなっているか。そのような中心市街地の資料収集の見通しが不明確である気がする。

【藤田委員長】中心市街地に関しては近世の資料が少ないが、新野家文書や成内家文書など現存していることが分かっているものについては筆耕を進めているところである。市街地も周辺部も含めて、資料編の章立てとともにどのような資料を掲載していくかを検討している段階であり、計画上欠落しているものはないだろうと思っている。

【委員】例えば、大正末期に市内に武蔵中央電鉄があった。その資料は市で持っている資料ではないので、国会図書館や鉄道博物館に行き確認しなければならないだろう。また、旧八王子市史には教育の部分が抜けている。市の教育史を作るべきということは20年ほど前に市議会でも問題になった。八王子空襲についてもまだ不十分であるという意見があり、市史では各分野の重要な部分については改めて触れざるを得ない。市で持っている行政資料だけでなく、国や都の資料、国会図書館、通信博物館などにも出向いて調査しないといけない。

【委員】近現代資料編1については、旧町村文書を中心に編さんするという方針を出している。近現代資料編2では、それ以外の資料を掲載する考えであり、市で持っている以外の資料を見ないということではない。

幕末維新时期と近代との境界については、なかなか近世部会と十分な打合せができていないのが実情であるが、八王子の幕末維新时期をどちらの時代区分でどう描くのか、十分検討していきたい。

教育史については、なかなか悩ましいところである。すでに教育史があればそれを利用するのだが、ゼロから取り組むとなると相当の仕事になる。ただ、触れないわけにもいけないので、早急に検討したい。鉄道に関しては、その分野の研究者に専門調査員をお願いしているので、資料編2には生かしていきたいと思う。

3. 『八王子市史研究』創刊号について

【藤田委員長】次に市史研究創刊号について事務局から説明願いたい。

【長谷部主査】資料2をご覧願いたい。割付表の変更点を中心に説明する。原始・古代部会からの論文2編は、関部会長、服部専門調査員が執筆する。近現代部会の論文は齊藤委

員が執筆、民俗部会の論文1編は乾専門調査員だが、前回から追加になっている。資料紹介の2編は民俗部会の神専門調査員と中世部会の櫻井委員の執筆と決定した。

次に投稿原稿の状況である。現在までに8人から投稿希望の連絡があった。原稿の締め切りは今月29日である。10月初旬に担当の編集委員3人に集まっていたいただき市史研究編集会議を開催し査読者を決定のうえ、10月下旬には掲載原稿を決定したい。

続いて、前回の編集委員会で出された課題の対応について報告したい。インターネット等での論文の公開、差別的用語の使用に関しては、それぞれ執筆要項に項目として掲げ歯止めをかけた。多言語表記に関しては、論文等のタイトルのみを英文表記することとした。

今後のスケジュールであるが、10月15日に依頼原稿の締め切り、10月下旬から11月中旬までが編集、11月末には契約手続きに入りたい。

【藤田委員長】事務局から説明があったが、当面、投稿原稿の扱いが課題である。10月上旬に編集会議を開き、投稿原稿を読む方を決めて願います。スペースの関係もあるので掲載可能なものを選ぶという手順になるということだ。

【委員】査読者はコメントを書くということだが、採用するかどうかは、今回の市史研究を担当する編集委員が決めるということになるのか。

【藤田委員長】そう考えている。査読だけで採否を決められるとスペース的に不可能ということが出てくる。採否を検討するのに有効なコメントをもらえればありがたい。

【委員】原稿投稿の際の条件はどのよう明示しているのか。

【新井主幹】募集に際しての要項では、審査にあたっては「話題の妥当性」「方法の適切さ、論理展開や結論の明確さ」「八王子の歴史や自然研究との関係性」などを基準に審査しているとされている。

【委員】それでは、その3点の基準に沿ってコメントするということになる。査読する方は注意したほうがいい。

【委員】原稿を投稿者に返却する際にはどういうコメントをつけるのか。単に掲載しないというだけなのか、なぜ採用されなかったか理由をつけるのか。

【藤田委員長】今回は原稿の問題点や不足点などを付けてお返ししたいと思っている。採否を決めるのだから、担当する編集委員の責任であるが、掲載しない理由を説明するためにも査読者には適切なコメントをもらえるとありがたい。

【佐藤室長】市民に投稿を呼びかけたものであり、学会誌とは多少状況が違うと考え、投稿者のほぼ全員と面会した。委員が心配するような状況にはならないだろうと思う。編集委員の方々からは学問的なレベルでのご意見をいただきたいと思う。

4. 資料編の刊行準備について

【藤田委員長】次に資料編の刊行準備について。来年度には資料編の刊行が始まるが、見たりや中身など、市史のシリーズの1冊として統一が必要な部分がある。すべて本日決め

るものではないが、このような課題があるということを事務局から説明願いたい。

【新井主幹】資料3をご覧願いたい。資料編の刊行にあたっては、体裁など、一定の統一を図る必要があるだろうと考えている。刊行は来年度になるので、今決めなくてもよいところもあるが、喫緊の課題となる来年度の予算要求に向けた体裁などの問題を整理しておきたい。

体裁の統一については6冊の資料編について統一すべき事項をまとめたものである。外箱をどうするか、表紙の装丁、判型、刷色などであるが、外箱については前回話が出たとおり、刊行する本すべてに外箱をつけるのではなく、必要と思われる部数分だけ作るという考えもある。印刷会社に確認したところ、そのようなことも対応可能であるということである。

続いて、内容、つまり構成の統一についてであるが、来年度刊行する原始・古代資料編、近現代資料編1の構成案が各部会から提出されている。扉、口絵、刊行のあいさつ、巻末のほうで資料提供者一覧、協力者一覧、執筆分担表や関係者名簿、編集後記などが統一すべき部分であろうと思う。ここに記した以外にも統一が必要な部分があればご意見をいただきたい。

【藤田委員長】まず、体裁について意見はあるか。図書館などでは外箱は捨ててしまうものなので無駄なものかとも思うが、飾ることを考えると立派な箱に入っていたほうがいいとも言える。実用的に考えれば必要はないと思うが、箱があったほうがいいという人もいるだろう。ただ、全部が箱つきである必要はないと思う。

【委員】資料編と本編とで分けるという考えもある。本編は1回読めばいいのかもしれないが、資料編は長期間にわたって使うことを考えると箱はいらないのではないか。

【委員】委員長の言うように、原則は箱なしにして、限定部数分のみ箱を作っておくということでもいいのではないか。私の経験では、記念論文集などで普及のためにソフトカバーで作るが、謹呈分は箱つきとするような例もある。

【委員】なかなかこの場では結論は出ないと思う。編集委員会での議論はこうだったということにして、最終的には市長の意向でいいのではないか。

【新井主幹】それでは、今のご意見を参考にさせていただき、最終的には市として決定させていただくことにしたい。

【藤田委員長】より大切なのは構成の統一についてである。原始・古代と近現代の構成案が出されているが、近世や中世などは、近現代との統一が求められると思う。近現代の案では「総説」の部分に資料編1の編集のあり方や特徴を書くということでもいいのか。

【委員】この部分では、この資料編をどういう意図で編集して、どういう資料を中心に選んだかを書いておかななくてはいけないと思う。そして各章や分野ごとに資料の解題を含めた解説を書くことにして、資料1点1点についての解説は書かないということだ。

【藤田委員長】中世もこのようなスタイルになると考えていいか。

【委員】総説部分は当然入ると思う。基本的には編年で資料を並べるつもりでいるが、戦

国時代の資料が多いので、それをどう構成するかは決まっていない。中世の場合は資料が読みにくいので1点ごとに網文を入れる可能性が高い。1点ごとに解説は入れないが、各章ごとの解説はつけるようだろう。全体的には近現代の構成に近いものになると思う。

【委員】カラー写真などは入れるのか。

【委員】本文中に入れる写真については白黒でいいと思っている。

【藤田委員長】中世、近世、近現代についてはおおよそ同じようなイメージで作りたいたいと思っていることがわかった。原始・古代はまたスタイルが異なるが当然のことだろう。

5. 顧問及び協力員の設置について

【藤田委員長】それでは次の顧問及び協力員の設置について、事務局から報告願いたい。

【新井主幹】市史編さん審議会の議論でも当初から出ており、基本構想にも盛り込まれているが、顧問のような制度を作る必要があるだろうということであった。今回、これに基づき、市史編さん室顧問、市史編さん協力員という制度を作りたい。

まず、顧問の職務としては、市史編さん室の求めに応じ事業に関することについて助言するものとする。八王子の自然や歴史に関する研究に顕著な実績のある市民、または全国的な研究業績のある研究者から1、2名を選びたい。報酬は無報酬だが、専門部会等で助言するような場合は実績に応じて謝礼を支払いたいと思っている。

市史編さん協力員は市史編さん研究協力員と市民協力員の2種類を設置したい。この協力員の設置については、特に基本構想にある市民協働の考え方を具現化するものと考えている。研究協力員は地域の研究者で地域研究に顕著な業績のある方、市民協力員は研究者ではないが地域史研究に一定の業績があり、市史編さん事業に強い意欲や関心のある方に依頼したい。顧問と同様、無報酬だが実績に応じた謝礼の支払いはしたい。現在、顧問、協力員とも人選を進めており、近いうちに決定したい。

【委員】市史編さん審議会でも議論のあった話である。八王子にはこれまでのさまざまな研究実績があるので、市民協働という点からもぜひ前向きに検討いただきたい。

【委員】協力員の人選は事務局で決めるということなのか。例えば何人くらいの協力員を考えているのか。その協力員は部会の会議に出席するということになるのか。

【新井主幹】協力員は専門部会の一員として活動してもらうことはないと思う。先ほどの近現代部会の例のように、研究者を部会にお呼びしてこれまでの研究実績をお話いただき、部会としてはそれを参考にするという形での協力を考えている。市内には地域史に関する実績のある方も多く入るので、そのような方をお願いしたい。人数としては総数で10~20人程度になるかと思う。

【佐藤室長】顧問については「市史編さん室顧問」という表現を使っており、基本的には事務局が接触することが多くなるだろう。専門部会に関わる場合には部会の運営の考え方に沿って行っていきたい。先行研究があつての市史編さん事業なので、研究協力員は論文などの実績がある方をお願いしたいと思っている。市民協力員は、市史編さん室が資料調

査を行っている際に情報提供や協力していただいている方々、団体などがあるので、そういう方や団体との協力関係を作っていきたい。専門部会はあくまでも部会長中心に運営していただき、必要があれば近現代部会の例のように協力いただくというスタンスでいいかと思う。

【委員】新しい市史の編さんは長い間望まれていた事業だと思う。八王子は人口も多いし古くからの地付きの方も多い。そういう人たちが市史編さんに興味を持っているということはいいことだと思う。協力員、顧問という名前はびんと来ないが、市民サイドの感覚としては必要なものだと思う。

【藤田委員長】顧問も協力員も事務局で選任するということで、候補としたい方がいれば推薦してほしいということで理解する。専門部会との関係では、部会が主体性を持って活動し必要に応じて協力を求めるという趣旨でいだろう。

【委員】八王子にはいろいろな分野で活躍している方がいるので、そういう人たちを蚊帳の外に置くのではなく一緒にやれば成果が得られると考える。各部会で必要に応じて事務局に折衝してもらい、知識や資料を提供してもらおうというものだろう。

【佐藤室長】市史編さん事業をスタートできたのも、地域の研究者の声があったし、尽力いただいたことも承知している。これだけの予算が確保できているのも、多くの市民の意見があるからだと思う。部会運営との関係が難しいのは理解するが地域の研究者を尊重することも大切である。間を取り持つ事務局として関係がスムーズに行くよう努力したい。

現在は、研究協力員の候補者に一人ずつ会って市史編さんの状況などをお知らせしている。もう少し時間をかけて設置していきたいと考えている。

【藤田委員長】編集委員会としては、そのように報告を受けたということで理解する。

6. 平成 22 年度補正予算の計上について

【藤田委員長】それでは次の平成 22 年度予算の計上について事務局から報告願いたい。

【新井主幹】それでは口頭で報告する。ここで国の緊急雇用対策事業補助金が出ることになり、対象事業として古文書等のマイクロフィルム化を申請した。予算としては 9 月議会に補正予算 8,500 万円を計上したところである。緊急雇用対策事業には全事業費の 50%以上を人件費に当てるなど、いろいろと条件があり、どんな事業でも適用できるわけではないが、このマイクロフィルム化事業は業者のほうで対応可能ということで申請した。補正予算が可決すれば 10 月以降 3 月までに郷土資料館の名主家文書を中心にマイクロフィルム化を行う予定である。

【佐藤室長】今回の補正予算計上に当たっては、所管の産業振興部でも市史編さん事業を第一に考えてくれた。この事業に理解を示してもらった結果かと思う。

【藤田委員長】これで近世の主要な文書がマイクロフィルム化できることになる。大変ありがたい話である。

7. その他

【藤田委員長】その他で何かあるか。

【新井主幹】次回は来年1月ごろの開催を予定したい。

8. 閉会

【藤田委員長】それでは、他になければ、これで本日の委員会を閉会する。

平成22年12月23日

会議録署名人 前 田 成 東